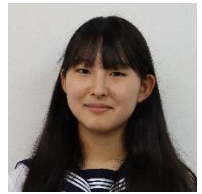


この事業を通して学んだこと

網走市立第三中学校 二年

相馬 優花（そうま ゆうか）



私は、今回の青少年平和都市友好交流事業に参加して、本当にたくさんのことを学び、貴重な体験をさせていただきました。

1日目は、広島県の実験ドームと平和記念公園の見学に行きました。ずっと行きたかった場所に行けて嬉しい反面、実験ドームは当時の悲惨さを物語っているようで心が苦しくなりました。

2日目は、「ひろしま子ども平和の集い」に参加させていただきました。ここでは実際に被爆された梶本さんの被爆体験講話を聞くことができました。梶本さんは14歳の頃、まさに私たちと同じ年齢の時に被爆されたそうで、当時のことをたくさん教えてくださいました。梶本さんは、原爆が落とされ、建物の下敷きになっていた際、足の痛みで生きていることを実感したそうです。私が生きてきた中で、痛みで生きていることを実感する、なんてことは経験したことも、考えたこともなく、当時はそれぐらい過酷な状況にあったのだと感じました。さらに梶本さんは、友達の叫び声が聞こえた時、友達も生きていることが分かって、

「助けなきゃ」と思い、血だらけの自分の足をがれきの中から引っ張り出して、友達を助けに行ったそうです。この時、梶本さんは友達の声が原動力になったとおっしゃっていました。このように、梶本さんの話はどれも生々しいものばかりで、聞いていて心苦しくなりました。梶本さんの話を聞いて私が感じたことは、命と家族の大切さです。梶本さんは原爆が落とされた時、最初に頭に浮かんだのはやっぱり家族だと言います。笑顔で家族と一緒にご飯を食べられる、それが一番幸せだとおっしゃっていました。そして、「命を大切にしてください」と。今までこの言葉は数え切れないほど耳にしてきましたが、実際に被爆した梶本さんの言葉は重みがあり、心に刺さりました。また、この集いでは現地の中学生たちが平和を祈る活動などの発表を行っていました。その発表をきいて、現代を生きる私たちは、戦争の歴史を語り継いでいくことが大切だと思いました。そして、私は生徒会に入っているため、同じ年代の中学生たちが活動に取り組む姿勢や発表の仕方などをこの目で見て、それらを自分の学校でも活かしていこうと思いました。この集いは、私の人生の中でも大変貴重な経験となりました。さらにこの日は、宮島の実験館や厳島神社にも行きました。日本の伝統的な美しさに触れることができ、それらをこれからも大切にしていきたいと思いました。

3～4日目は東京都で過ごしました。東京ディズニーランドに行ってアトラクションなどを楽しむことができました。ですがそれも、今この世界が平和であるからこそできることなのだと実感しました。そして、東京都慰霊堂や平和祈念展示資料館の見学にも行きました。関東大震災や東京大空襲のことをたくさん学ぶことができました。特に、平和祈念展示資料館では、学校ではあまり詳しく学習しないような戦争中・戦争後の様子などが展示されていて、学ぶことがとても多かったです。

今回の青少年平和都市友好交流事業に参加して、一番大切だと思ったのは、平和の素晴らしさ、ありがたさです。今ある平和が当たり前ではないということを実感して、平和であることがどんなに素晴らしく、ありがたいことなのかを、これからまわりに伝えていきたいと思いました。そして平和であることに改めて感謝し、一日一日を大切に生きていこうと思います。この事業に参加させていただき、本当にありがとうございました。